



ケースレポート: 不成功な人工透析
医療分野: 腎臓病学

1 患者データ



年齢: 58歳
性別: 男性
身長: 1.82 m

最初の体重: 112.75 kg
最初のBMI: 33.50 kg/m²

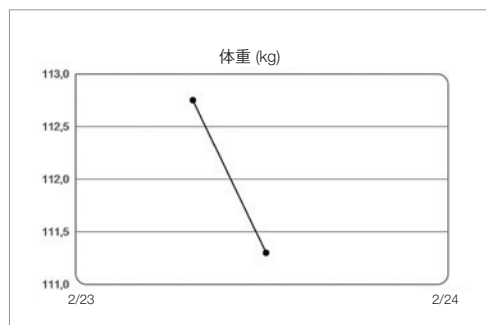
2 既往歴 / 診断

慢性腎不全の58歳の男性は4年間人工透析を受けている。手順の一環としてドライウエイトを定期的に量る必要がある。単純な体重測定では除いた水分量がわかるだけである。次の問題はドライウエイトが本当に適切であるかということである。それには seca mBCA の助けで体組成を明らかにする必要がある。

3 測定結果の図

人工透析による水分量の減少は体重の表で評価できる。

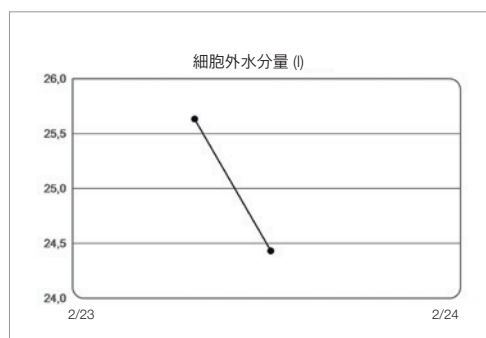
- 透析前: 112.75 kg
- 透析後: 111.30 kg



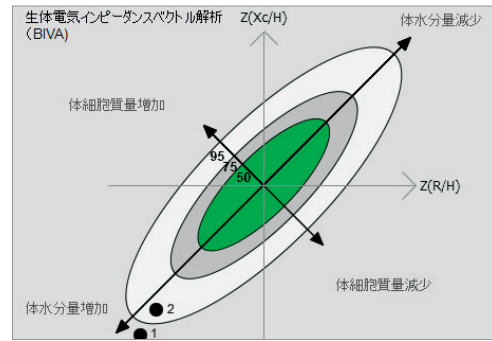
細胞外水分量

細胞外水分量の結果は期待通りの減少を示している。

- 透析前: 25.60 liters
- 透析後: 24.40 liters



生体電気インピーダンスベクトル解析
 生体電気インピーダンスベクトル解析 (BIVA)
 は人工透析はまだ患者に合うようにセットされて
 いないことを表している。患者がBIVAの正常範囲
 の外側の限界にいるということは水分減少/ドライ
 ウェイトはまだ十分に"除水"していないことを
 意味する。



4

まとめ

患者のグラフはドライウエイトを明らかにするとともに体組成を明らかにすることが重要であることを表している。BIVA チャートで患者はまだ正常レンジの外側にいることからドライウエイトはまだ適切とは考えられないことが BIVA を使って言える。

seca mBCA 測定はドライウエイトを評価することができる。このケースでは患者の値が正常範囲の限界の外側ギリギリにあることから、人工透析はまだ正しくセットされていないことを、BIVAが表している。

seca | mBCA



seca mBCAの製品情報はこ
 ちらのスキャンコードか直接こ
 ちらへ: mbca.seca.com